

令和4年度第1回和泉市総合教育会議

日時：令和4年7月21日（木）
午後3時00分から
場所：庁議室

次 第

1 議事

(1) 学力向上に向けた取り組みについて

(2) 本市における生徒指導上の課題の対応について（非公開）

2 その他

和泉市学力向上検討懇話会の経過報告

和泉市学力向上検討懇話会 構成メンバー

構成	有識者：樋渡 啓祐 (前 佐賀県武雄市長)
	小宮山 利恵子 (東京学芸大学大学院准教授)
	和泉市：小川 秀幸 教育長 (座長)
	藤原 安次 教育委員
	中西 正人 教育委員
	森吉 豊 副市長
	吉田 康人 副市長 (オブザーバー)

※その他、必要に応じて意見を聞くためのオブザーバーの出席を求める。

開催日程・テーマ

	議論するテーマ
第1回 (5/19) 開催済	・本市の学力向上に関する現状と課題について
第2回 (5/25) 開催済	・今後の取組み、施策展開について (効果的なICT活用等)
第3回 (6/23) 開催済	・今後の取組み、施策展開について (民間活用や次世代を見据えた取組み、施策展開案について)
第4回 (8/3)	・今後の取組み、施策展開について ・これまでにいただいた意見の確認、まとめ

【今後の具体施策（案）】

予算を伴わない施策

「ターゲット 全ての学校」
学力向上に資する全校への個別指導（PDCA強化）

協議・意見交換①

今年度内に新たに予算が必要な施策（案）

「ターゲット 市内1中学校の1学年」
授業改善「授業と生徒のマッチングに関する共同研究」
AIによる新しいコーチング研究

協議・意見交換②

次年度以降に新たに予算を伴う施策（案）

「ターゲット 全ての児童生徒」
家庭での個別最適な学習支援（AIドリル活用の実証実験）

予算確保済みで改善する施策（案）

「ターゲット 厳しい家庭環境にあり支援が必要な児童生徒」
校外での放課後学習支援（事業実施方法の改善）

協議・意見交換③

「ターゲット 全ての児童生徒」
学習・生活状況等の情報を一元化（システム更新時に改善）

協議・意見交換④

【予算を伴わない施策】

「ターゲット 全ての学校」

「学力向上に資する全校への個別指導」(PDCA強化)

→ 今後の展開 (案)

(4月) 全国学力テスト自校採点

(5月) 校長目標設定面談

(9月) 校長期中面談

(2月) 達成状況確認

個別学校の状況に応じた
指導と支援

・STFプロジェクトチームによる
学校訪問での指導助言

協議・意見交換①の意見から

- 他市の事例で効果があったことは、どんどん参考にして新しいものを創出することが重要であり、それは行政の良さだ。
- 他市で効果があった取組みについては、すでに可視化されている取組みなので、実証する必要なく、施策に取り組める。学力の偏在がある中、成功している市があるのだから、参考にするとよい。

【今年度内に新たに予算が必要な施策（案）】

「ターゲット 市内1中学校1学年」

英語AI教材、及び授業と生徒のマッチングに関する共同研究

→ 今後の展開（案）

- ・R4から共同研究を希望する中学校4校にて、2年生合計600名程度を対象に「AIによる新しいコーチング研究」を実施
同時に「AI英語学習システム」を活用
- ・実証研究を踏まえ、大学連携を強化→「AIによる新しいコーチング研究」を希望する学校へ展開

【次年度以降に新たに予算を伴う施策（案）】

「ターゲット 全ての児童生徒」
家庭での個別最適な学習支援（AIドリル活用の実証実験）

→ 今後の展開（案）

- ・家庭での常時1人1台学習用PC活用（市からの発信）
- ・AIドリル実施（予習・学びなおし）
- ・学校で宿題などの取組をフォロー、支援（復習・補充）
- ・保護者に対する説明（例 説明動画による、家庭でのGIGA端末活用）
- ・学期ごとの個人懇談会等にて状況確認
- ・ICT支援員の活用

協議・意見交換②の意見から

- 一つめのAI教材は、英語に特化したもので、二つめのAI教材の中にも英語があるということになる。
- 同時並行で行うのであれば、生徒は混乱するだろう。
- 一つに絞った方がいいのではないか。
- 教員が異動したときにも弊害が起きてしまう。
- 一元化するべきだ。

【予算確保済みで改善する施策（案）】

「ターゲット 厳しい家庭環境にあり支援が必要な
児童生徒」

「校外での放課後学習支援事業」の取組み

→ 今後の展開（案）

- ・「いずみ希望塾」の次年度以降の事業改善
- ・選定事業者が管理するスタディログ（子どもが学んだ履歴）を保護者端末と同期など

協議・意見交換③の意見から

- いずれも希望塾でも、先ほどのAI教材を取り入れたほうが良いと思う。
- AI教材を使うなら統一しないとおそらく子どもたちが混乱する。
- AI教材を導入した時点でやり方を変えていくのが望ましい。

【予算確保済みで改善する施策（案）】

「ターゲット 全ての児童生徒」

学習・生活状況等の情報を一元化（システム更新）

→ 今後の展開（案）

- ・校務支援のデータ管理システムを次年度に更新し、より効率的な機能を導入することにより、指導にいかす

協議・意見交換④の意見から

- 親とのやり取りなどもアプリやスマホでできるのか。
- 朝の連絡対応で業務改善が図られると、本来の教育活動に資する教員の時間を確保することができる。
- 新校務支援システムの導入時に、決まった予算の範囲内で、どれだけの内容を盛り込むことができるのか。

今後の展望について（教委事務局案）

今年度後半から、次年度以降に向けた施策、
特に予算を伴う施策の方向を確認

- 5教科AI教材の導入に向けて
- 次年度「いずみ希望塾」での学習スタイルに、AI教材を活用することについて
- 新校務支援システムの活用に向けて

5教科AI教材の導入に向けて（教委事務局案）

- ◆ 1人1台学習用PC上で、使えば使うほど最適化するAI型教材。児童・生徒の学習意欲向上と基礎学力定着を行う。一人ひとりに個別最適化された学習で、苦手な問題でもつまずかずに基礎固め。主体的・自律的な学習を促し演習量を飛躍的に増やせるため、家庭学習（宿題）での活用が有効。また、校外の学習支援事業での活用も想定。
- ◆ 教科：小1・2（国・算）、小3・4（国・算・理・社）、小5・6（国・算・理・社・英）、中1・2・3（国・数・理・社・英）
- ◆ 費用：一人あたり年間5,000円程度
（すべての児童生徒に導入した場合 年間約75,000,000円）
- ◆ 市内5校（和泉中・郷荘中・槇尾中・横山小・鶴南小）で1学期に先行試行実施（夏休みまでに、市内全校全児童生徒）R4は無償活用

事業者選定にかかる債務負担 9月補正予算要求

『新しいずみ希望塾（R5-7）』について（教委事務局案）

今秋プロポーザルで事業者選定を実施予定

予算：2億6100万円（R5-7の3年間）

予算確保済み

＜仕様予定＞

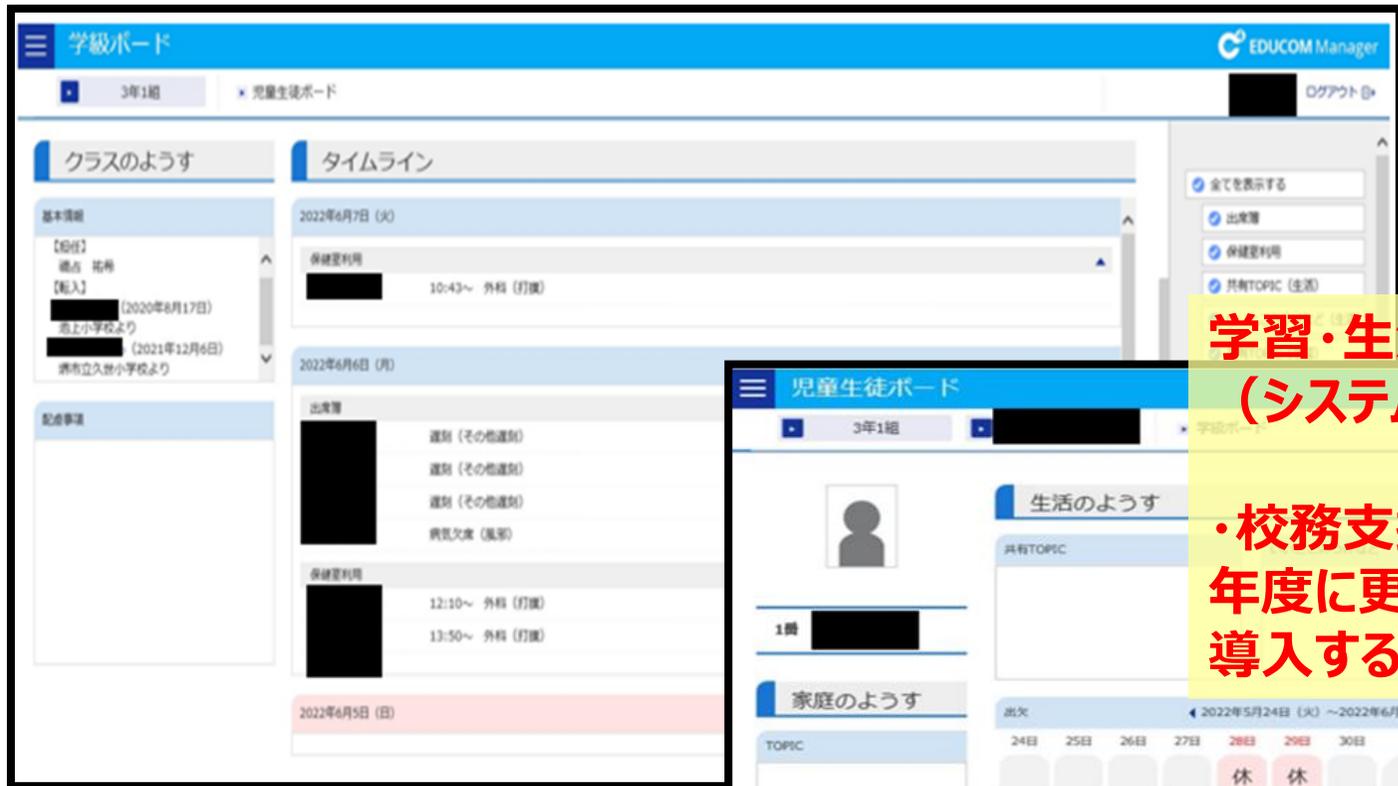
- ◆ 420名程度→850名に拡充
- ◆ 年間80回のうち、40回を会場での対面実施、40回を家庭でのオンライン実施とするハイブリッド型

＜検討事項＞

- ◆ 教材はテキストに加え、AIドリルも活用可能
- ◆ 習熟度別指導
- ◆ テスト回数増加
- ◆ 学習履歴の確認機能（保護者端末で確認可能とする）

新校務支援システムの活用について（教委事務局案）

←学級ボード

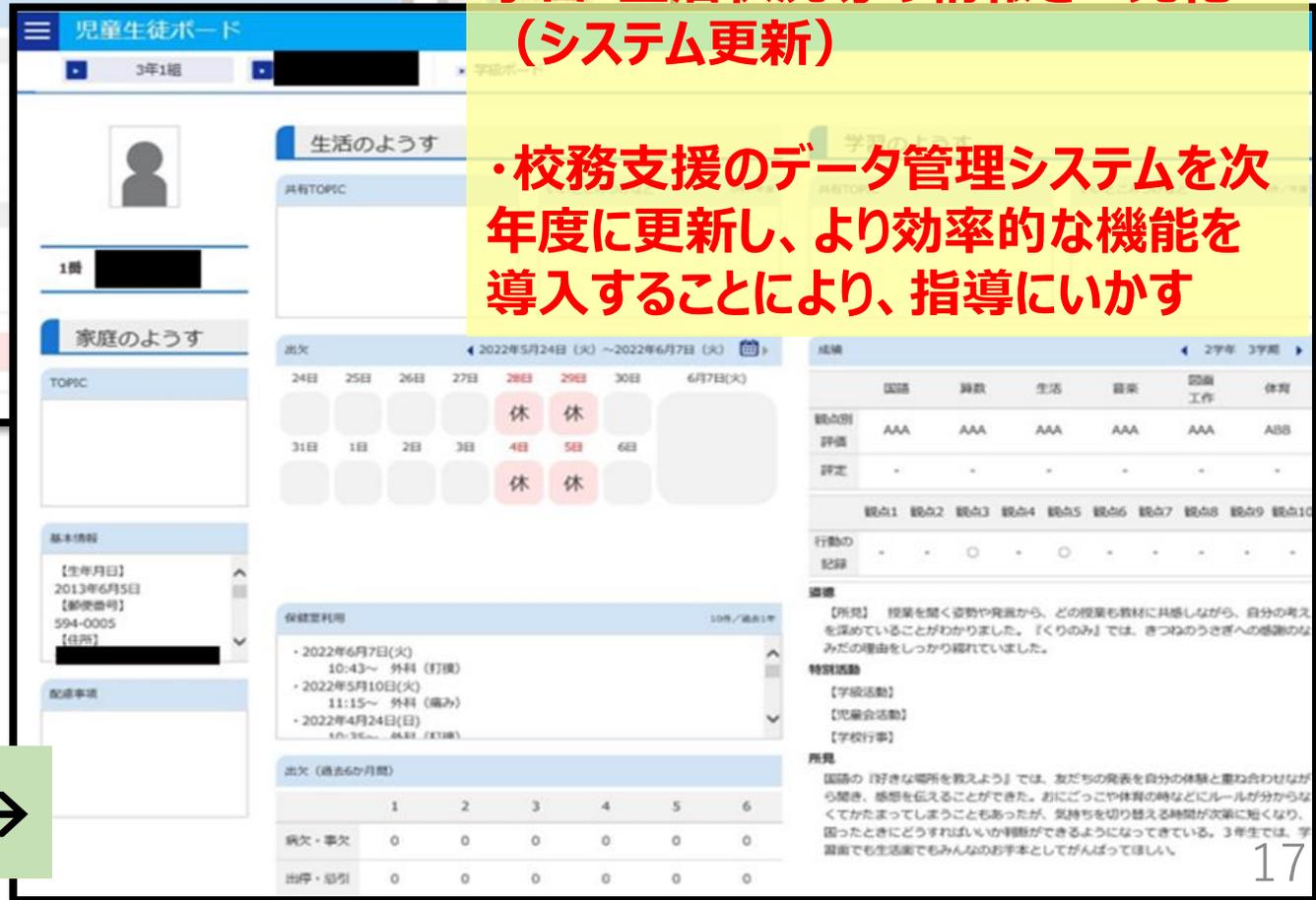


学習・生活状況等の情報を一元化
(システム更新)

・校務支援のデータ管理システムを次年度に更新し、より効率的な機能を導入することにより、指導にいかす

予算確保済み

児童生徒ボード→



Q1グランプリ

和泉市立学校

全児童生徒参加可能

和泉市立学校保護者の皆さまへ

令和4年7月

和泉市教育委員会
教育長 小川 秀幸

第1回和泉市Q1グランプリの開催について

平素は、本市の教育活動にご理解・ご協力いただきありがとうございます。さて、本市では児童生徒一人ひとりに合わせた学習を進めるため、AIドリルであるQubena（キュービナ）を今年度末までの期間限定で試験導入いたします。つきましては、夏季休業期間中に第1回和泉市Q1グランプリを開催いたしますので、積極的にご参加いただきますようよろしくお願いいたします。

AIドリルを活用！ 学年設定目標学習時間を超えろ！！

第1回和泉市Q1グランプリ実施要項

1. 目的：AIドリルの活用を促進することにより、一人ひとりの理解に合わせた基礎学力等の定着をめざす。
2. 対象：和泉市立学校に在籍する全児童生徒
3. 実施方法：実施期間中においてQubenaを活用して学習に取り組む。
4. 実施期間：令和4年7月21日（木）～8月24日（水）
5. 使用アプリ：Qubena（キュービナ）
6. 入賞：実施期間中におけるQubenaを活用した全教科の合計時間が、学年ごとに設定した学習時間を上回った人へ、学習時間に応じたデジタル賞状を授与。

【学習時間】

- ・小学校（義務教育学校前期課程）1年～2年：4時間（毎日10分×24日＝240分）
- ・小学校（義務教育学校前期課程）3年～4年：5時間（毎日13分×24日＝312分）
- ・小学校（義務教育学校前期課程）5年～6年：6時間（毎日15分×24日＝360分）
- ・中学校（義務教育学校後期課程）7年～9年：7時間（毎日18分×24日＝432分）

Qubena（キュービナ）とは・・・

間違いの原因をAI（人工知能）が解析し、搭載されている数万問から一人ひとりに個別最適化された問題が出題されます。過去の単元や前の学年の分野に問わずポイントがある場合でも、AIが児童生徒一人ひとりの学習中の計算過程や解答を分析することでますます原因となっているポイントを特定し、その問題へ連れていってくれます。

〈対応教科〉

- 中学校・義務教育学校後期課程 7年～9年：国・社・理・数・英
- 小学校・義務教育学校前期課程 5年～6年：国・社・理・数・英
- 小学校・義務教育学校前期課程 3年～4年：国・社・理・数
- 小学校・義務教育学校前期課程 1年～2年：国・算

Qubenaへのログイン方法

- ・別紙【Qubenaへのログイン方法】を参照してください。
- ・Qubenaへは令和4年7月20日（水）までにログインできるようになります。



次のステップ
AIドリルに
保護者ととも
に取り組む機
会の創出